

～軽井沢町の“今”を伝える情報誌～

ボランティア情報

2016年
3月

発行 軽井沢町ボランティアセンター
〒389-0111 軽井沢町大字長倉 4844-1 木もれ陽の里
電話 45-8113 FAX 46-2116

http://www.ktvc.jp Email karu-vc@eco.ocn.ne.jp

～支え合いと助け合い～

「幸せ」と「困りごと」の間には何かある!?

最近、ベストセラーになった「下流老人※朝日新書出版」を読み終わりました。「下流老人」なんて響きの悪い・・・という反響もあったかなかったか、著者の藤田孝典さんは第2作目の「貧困世代※講談社現代新書」も発行されているようです。

著書から見つけた新しいコトバ。例えば若者ホームレス・貧困ビジネス・ドヤ街・居住福祉政策等々、今まで世間に話題としてあげられることが少なかった事例が、今ではテレビやラジオ、新聞や雑誌などで盛んに取り上げられています。そこにある背景は、国策として貧困対策が脆弱的であり、生活保護制度を受ける立場の方々は、今もその制度利用に後ろめたさを感じている...。憲法第25条いわゆる「基本的人権の尊重」は私たちの身近な貧困や困りごととはあったとしても、その人の人権までは侵害してはならないと規定しています。幸福追求権は第13条。誰もが幸せになれることを「権利」として保障しています。

さて、話題は変わって。地域での支え合いや助け合いの活動は多様な形で展開され、NPO法人やボランティア団体、今では地域の病院が地域活動の旗振り役をしている自治体もあります。これからの地域福祉は「福祉教育に始まり福祉教育に終わる」と話したのは日本福祉大学の原田正樹先生。あらゆる機会に福祉の「根っこ」を育てる努力を「社協」が続けることの意味合いを理解しなくてはならないとある講演会で話されました。

そこで、考えました。地域住民や行政・関係機関が手を取り合って乗り越えて行こうとしている現代社会の歪から発生する「困りごと」はどんな種類があるのか？

日常生活、毎日の暮らしが基盤。自身が高齢化して昔ならできていたことに不自由を感じるケース（地球の交換、大きなゴミ出し、話し相手がいない、近隣トラブル、庭木の剪定等）、持病の悪化で預貯金が底をついてしまい、若くても生活困窮になってしまうケース、知的・精神障害があり、困りごとを困りごととして認識できないケース等本当に多様化していますが、根本的にはみんな「幸せになりたい!」と思っていることには間違いのないと思います。ここがポイントだ!みんな自分の幸福を求めて暮らしている中で、たまたま困りごとや悩みごとを抱えることになるのだと。

だとすれば、住民主体の支え合い活動や有償在宅サービスなどは、そんな対象者の「生活の質＝QOL※クオリティー・オブ・ライフ」を維持、向上させていくために存在していると考えても間違いではないと言えますね。

標題にある「幸せ」と「困りごと」の間には何かあるのではないかと考えたのは、ここに着目したからです。生活の質の向上・暮らしの豊かさはどこに指標があるのでしょうか。それは、孤りでは生活できないということと、孤立無縁状態から地縁血縁に挟まれてでも「人間関係」の中で生きて行くこと。

前述した、下流老人に習えば、下流化の最後の砦は「自分の危機を周囲が敏感に感じ取れる人間関係」だそうです。あなたは、自分のSOSを周囲に感じ取ってもらいたいのですか?それとも・・・。

ちいき活動みほん市で小学生まめ記者が大活躍!!

1月31日(日)中央公民館で第6回ちいき活動みほん市が開催されました。当日は300名余りの参加者で会場は大賑わい。大人に交じって中部小学校“社会交流新聞社”の尾島美空さん、森谷真衣さん、高橋大助さんの3人が小学生まめ記者として会場を取材。その時の様子をお伝えします。

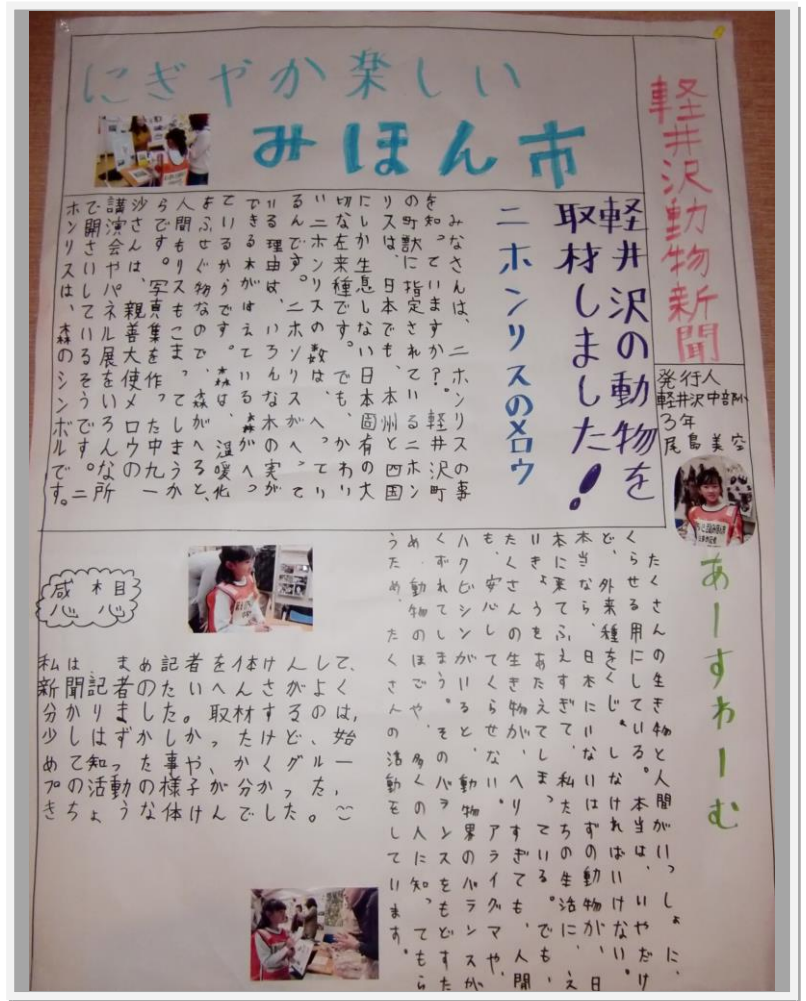
中部小学校3年 尾島美空さん



今回最年少で参加してくれた尾島さん。当日を迎える前に色々と出展者のことを調べてあり、特に「動物」をテーマに活動しているグループを中心に取材していました。(写真右)

そして、3年生とは思えないほどしっかりとした発表で会場の皆さんを驚かせてくれました。

尾島さんの感想(新聞より抜粋)
 私は、まめ記者を体けんして新聞記者のたいへんさがよく分かりました。取材するのは少しはづかしかったけど、始めて知った事や、かくグループの活動の様子が分かった、貴重な体験でした😊





4年生とは思えないほどしっかり者の森谷さん。新聞作りにとっても関心を持っており、なんと自分で出展者に対する「アンケート」を作って配り、集めて、結果を新聞で皆さんにお知らせしてくれました。アンケート内容は、ボランティア活動を続けている期間や年数、活動を続けていく秘訣などの2種類。アンケートを受けたボランティアさんたちも目を細めて大変喜ばれていました！

森谷さんの感想 (抜粋)

初めて記者体験ができてよかったです。軽井沢の色々な情報もしったのでとてもいい機会だったなあと思いました。





明るく元気でフットワークのいい高橋さん。大人に混じっても全く不安げな表情を見せません！さて、高橋さんは全6グループの取材を行いました。真剣に聴き取る高橋さんの姿を見て、ボランティアさんたちも感動…。軽井沢西地区国有林やぶ刈り実行委員会の取材では、熱心に教えてくださるボランティアさんに少々圧倒されたか！？しかし、自分でもやぶ刈りなら出来そうだ！と思えた高橋さんです。

高橋さんの感想（抜粋）
軽井沢町には、たくさんのボランティア活動があっぴびっくりしました。



…誰でも安心して活動するために…

《ボランティア活動保険に加入しましょう！》

*補償期間

平成28年4月1日～平成29年3月31日

*掛金（補償金額により異なります）

Aタイプ 300円/Bタイプ 450円

*手続き方法

・ボランティア団体

⇒『ボランティア活動保険加入申込書』

『保険加入者名簿』（団体独自のものです）

以上2点の書類に掛金を添えてボランティアセンターまでお持ち下さい（ボランティア団体の場合は加入数15名分までを社協で負担します）。

・個人ボランティア

⇒ボランティア登録票を提出で、加入となります。

手続き及び掛金負担は社協で行います。

※3月31日で保険が切れますので加入希望の方は忘れず更新してください！

～耳より情報・ボランティア募集！～

※手をつなぐ仲間たち

軽井沢病院へ清拭用の布を切り裂いて提供しているグループです。毎週水曜日午後1時～午後3時まで老人福祉センター2階工作室で作業中。

一緒に活動してくれるメンバーを随時募集中です！

お問い合わせは、ボランティアセンターまで！

布の寄付も受付中～。

※朗読ボランティア「オオルリ」

オオルリでは、広報かるいざわの録音をしています。こんな方々に如何ですか…。

・目がご不自由な方…録音されている広報を聴いてみては？

・施設入所されている方…枕元にデッキを置いて広報を聴いてみては？新聞や雑誌を読むのと同じで、耳から入る情報もとても楽しいですよ！

お問い合わせは、ボランティアセンターまで！

◆地域の縁側「野あざみ」◆

誰もが住み慣れた地域で最後まで自分らしく暮らせるための「居場所」。

介護者・育児ママ同士の集まり、その他地域のプラットフォーム（気軽に立ち寄れる場所）としてご利用ください。

縁側野あざみデータ：毎週（水）10:00～15:00まで・利用料100円

住所：軽井沢町軽井沢東89 お問い合わせ：45-8113（軽井沢町社協）まで

お手玉教室 生徒募集！ 「信州お手玉教室」 ～めざせ！お手玉名人～

開催目的 「お手玉遊びを通じて、地域のボランティアリーダーを育成します」

定期開催日 全12回コース（1年間の講座です）

毎月第2水曜日 10:00～11:30（都合により変更あり）

会場 ハートピアみよた集会室（御代田町御代田1772-1 TEL0267-321100）

募集人数 男女不問40名まで（年齢は問いません）

受講料 年間5,000円

内容 初めて触れるお手玉遊び・お手玉投げの基本 他

開校日 平成28年4月13日（水）10:00～11:30

ハートピアみよた集会室

持ち物：運動の出来る服装、筆記用具、お手玉（持っている方）、受講料5,000円

お問い合わせ 軽井沢町ボランティアセンター

～相談にのります！活動に必要な助成金制度のあれこれ～

ボランティア・地域活動に必要な財源について、国や県・町、様々な民間企業で助成している各種助成事業をご存知ですか？グループ活動に必要な経費をしっかりと確保して、資金面を充実させて行きましょう。相談は随時受付しており、申請書の作成・事業計画等の面倒な書類作成もサポートしています。

お気軽にご相談ください！



～MOGURIN KARUIZAWA 味噌作り～

2月22日(月)中央公民館で開かれた味噌作り。当日は15名程度のママたちが心を込めて味噌作りをしていました。味噌は丁寧に家庭用の味噌樽に仕込まれ、雑菌が増えないように「焼酎」で殺菌。来年の10月頃から味わえるようです。



まずは大豆を煮るところから



茹で上がった大豆をゆっくり磨り潰します



塩や麴を大豆と混ぜ合わせて

※このグループは町内の小中学校でも味噌作りや料理教室を開催しています。

自然農法に興味関心のある方はMOGURIN KARUIZAWAまで…。

問合せ先：mog39@me.comまで



愛情込めて樽に収めてお持ち帰り～

災害ボランティア活動フォーラムが開催されました！

2月14日(日)軽井沢アイスパークを会場に、軽井沢町初の災害時のIT活用に関するセミナーを行いました。講師は(一社)災害IT支援ネットワークの柴田哲史代表。元々Microsoft社でwordやexcelの開発を手掛けていたエンジニアで、東日本大震災で調布市の味の素スタジアムが広域の避難所となった際に、IT(ホームページ&facebook)を駆使した支援を展開。これが話題となり伊豆大島・広島市の土砂災害、直近では豪雪災害の際の前橋市社協の「大雪助け合いセンター」のホームページ、茨城県常総市の豪雨災害におけるホームページ作成等に携わられました。

柴田さんからは、ホームページやfacebookの作成に関して以下の通り専門的なアドバイスをいただきました。

- ・ページのタイトルはシンプルに！
- ・掲示する画像と共感ストーリーの使用
- ・活動の「みえる化」を徹底的に
- ・ホームページやfacebookは途中で分析しながら最初の1週間が勝負(情報収集のピーク)

等、普段知ることのできない世界を垣間見ることができた瞬間でもありました。



※参加者の心射止めたクライシスマッピングという取り組み。普段から「遊び」を通じてITに慣れておくことは、次回の企画にも生かせそうです！

